

2023年度ディプロマポリシーに関連した能力に関するループリック調査

(自己評価アンケート)

対象：現代ビジネス学科2年次（卒業許可者）

2022年度入学

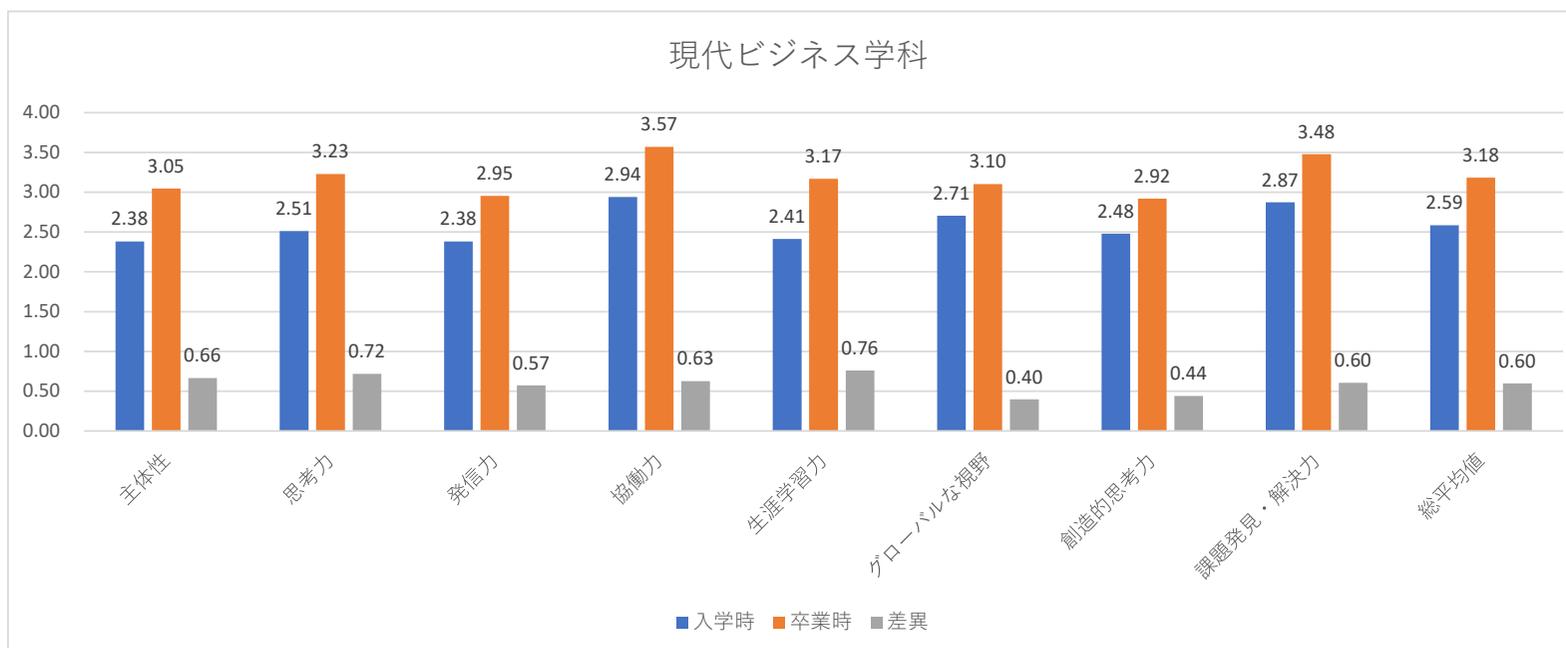
アンケート実施期間：入学時 2022年4月・卒業時 2023年12月

卒業時回答率：98%（89名/91名）

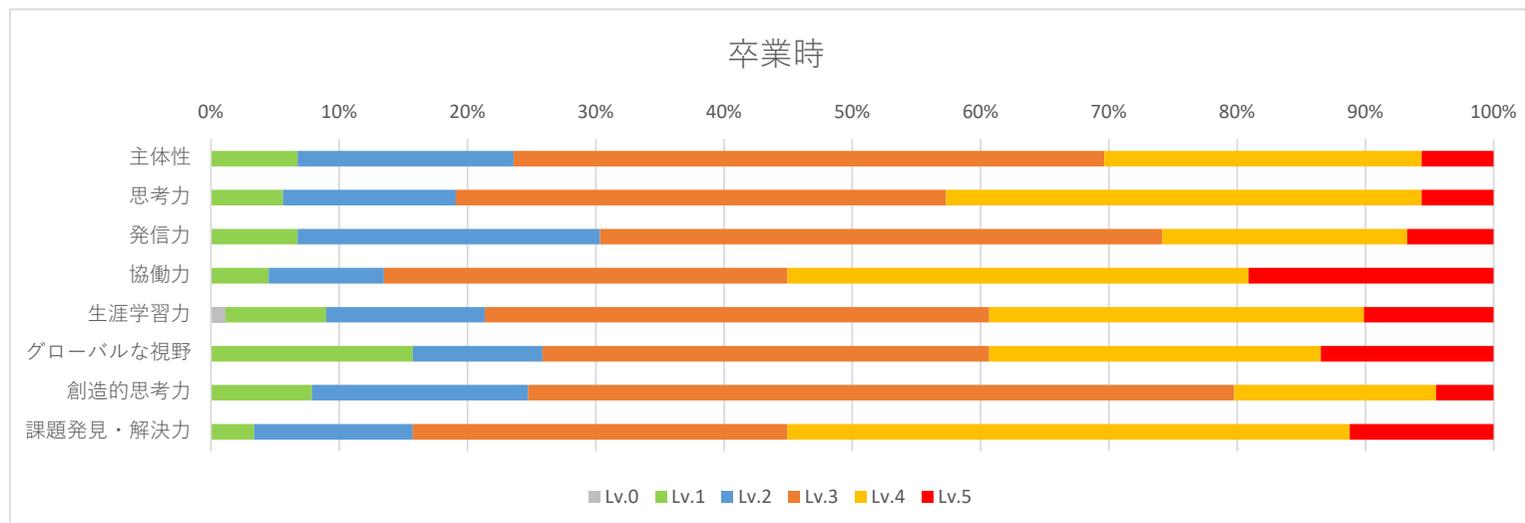
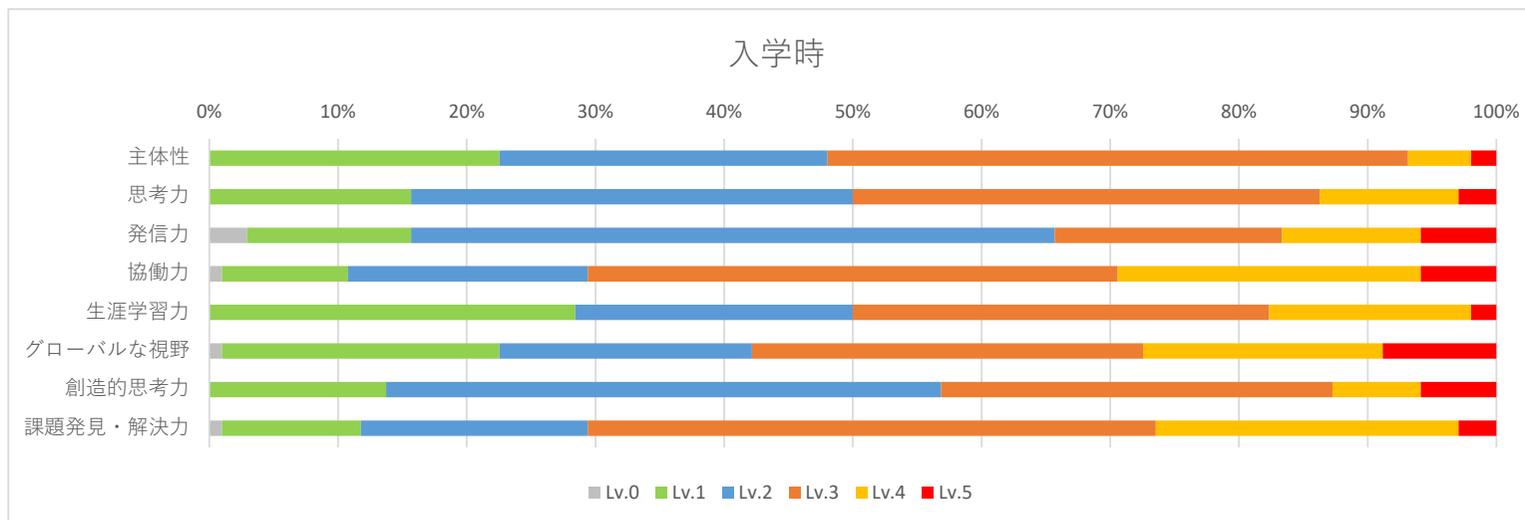
現代ビジネス学科全体

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.38	2.51	2.38	2.94	2.41	2.71	2.48	2.87	2.59
卒業時	3.05	3.23	2.95	3.57	3.17	3.10	2.92	3.48	3.18
差異	0.66	0.72	0.57	0.63	0.76	0.40	0.44	0.60	0.60

<グラフ1>



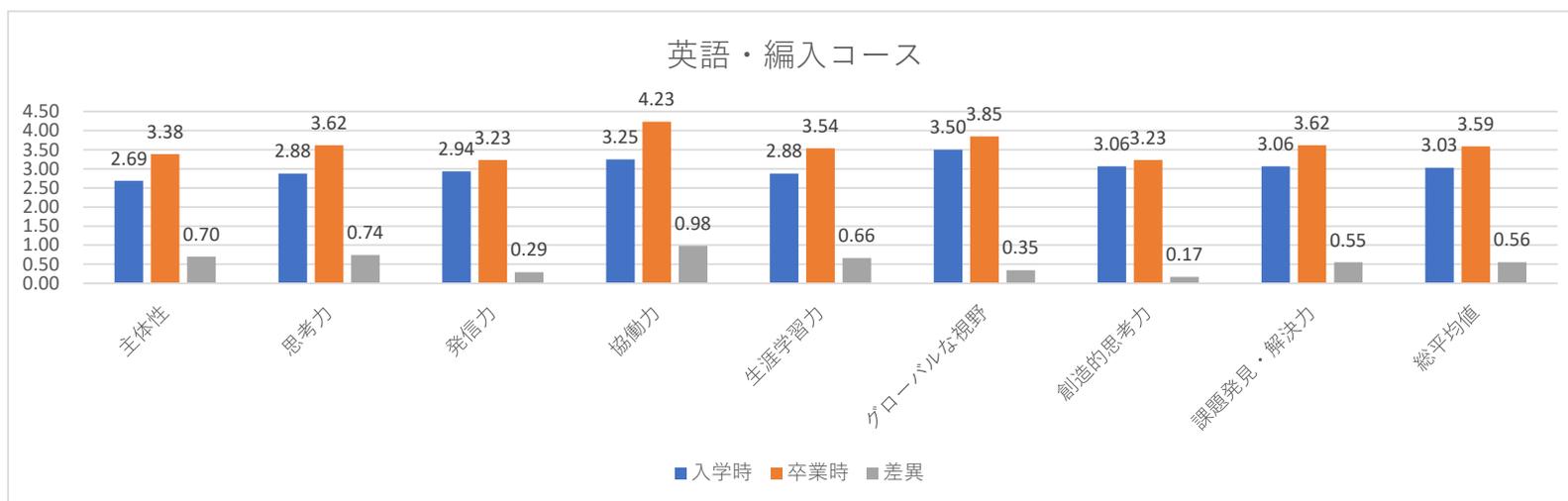
〈グラフ2〉 割合比較 ビジネス学科全体（暖色系はレベル3～5、寒色系はレベル0～2）



〈グラフ3〉 英語・編入コース

英語・編入コース

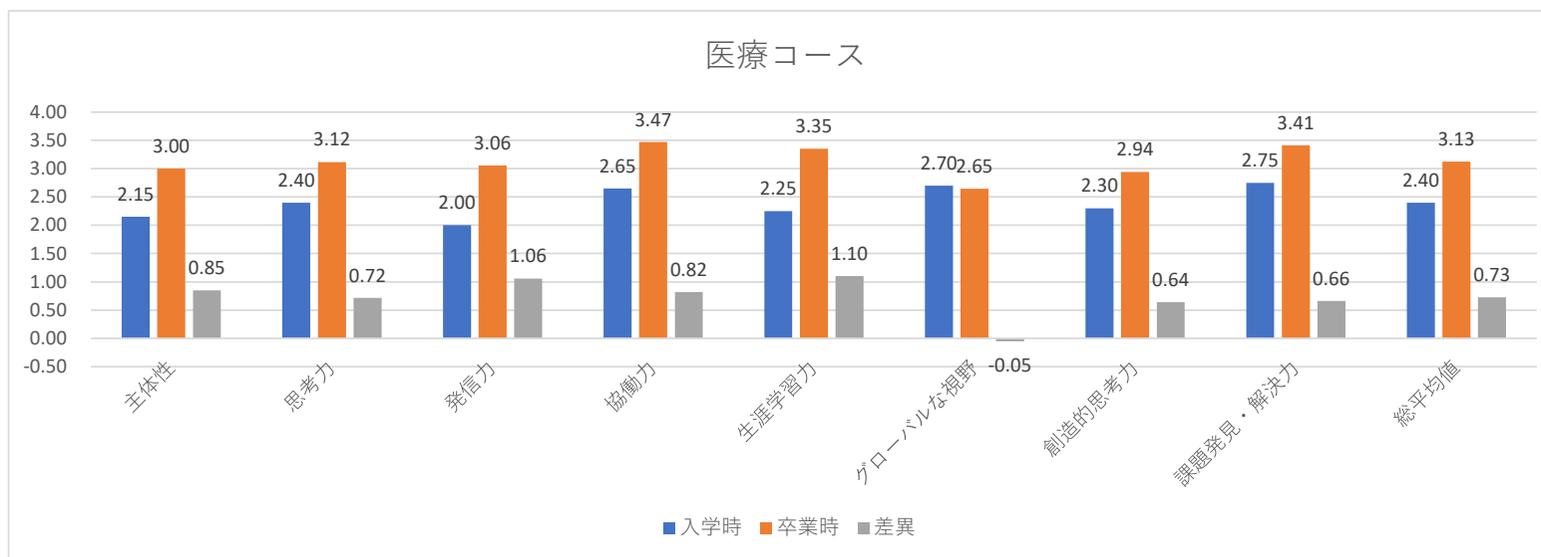
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.69	2.88	2.94	3.25	2.88	3.50	3.06	3.06	3.03
卒業時	3.38	3.62	3.23	4.23	3.54	3.85	3.23	3.62	3.59
差異	0.70	0.74	0.29	0.98	0.66	0.35	0.17	0.55	0.56



〈グラフ4〉 医療コース

医療コース

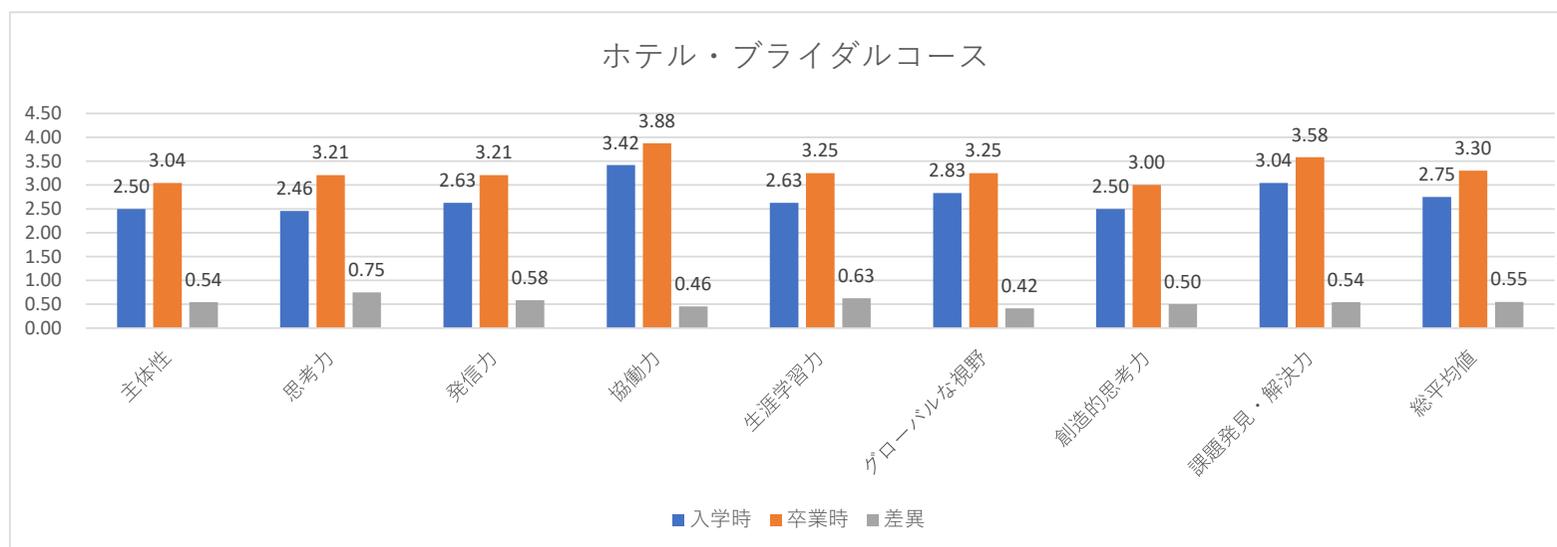
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.15	2.40	2.00	2.65	2.25	2.70	2.30	2.75	2.40
卒業時	3.00	3.12	3.06	3.47	3.35	2.65	2.94	3.41	3.13
差異	0.85	0.72	1.06	0.82	1.10	-0.05	0.64	0.66	0.73



〈グラフ5〉 ホテル・ブライダルコース

ホテル・ブライダルコース

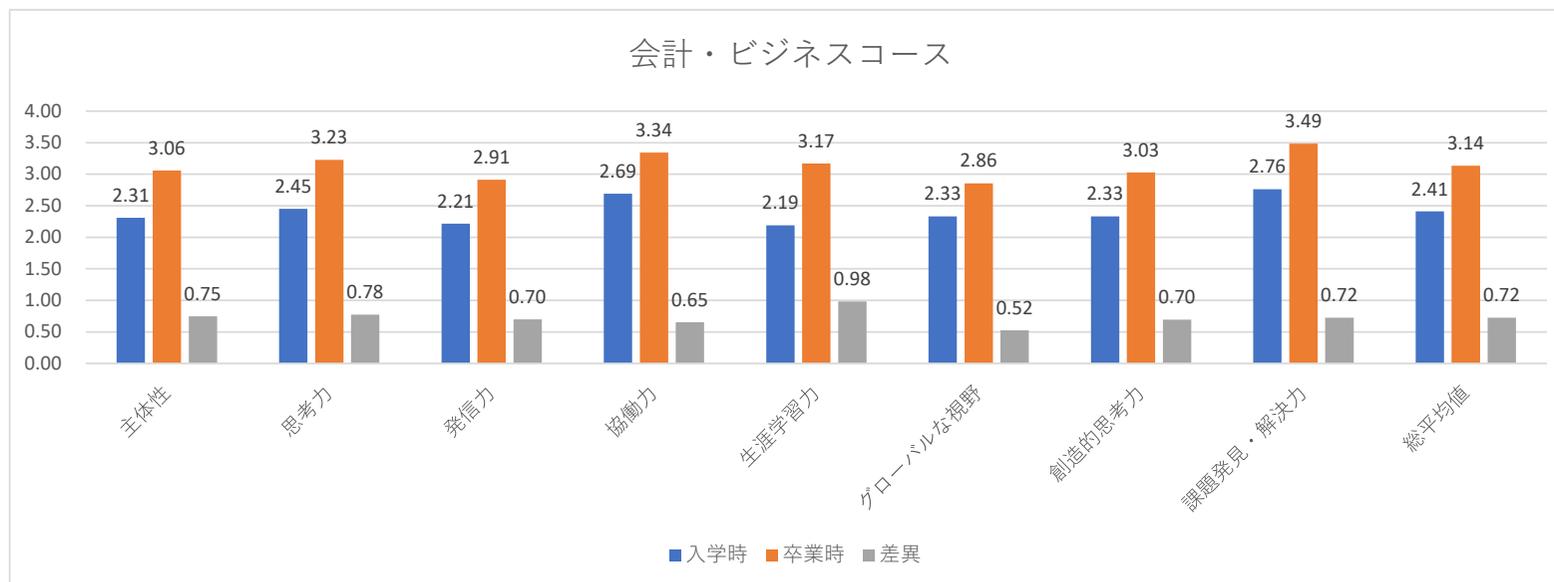
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.50	2.46	2.63	3.42	2.63	2.83	2.50	3.04	2.75
卒業時	3.04	3.21	3.21	3.88	3.25	3.25	3.00	3.58	3.30
差異	0.54	0.75	0.58	0.46	0.63	0.42	0.50	0.54	0.55



〈グラフ6〉 会計・ビジネスコース

会計・ビジネスコース

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.31	2.45	2.21	2.69	2.19	2.33	2.33	2.76	2.41
卒業時	3.06	3.23	2.91	3.34	3.17	2.86	3.03	3.49	3.14
差異	0.75	0.78	0.70	0.65	0.98	0.52	0.70	0.72	0.72



《所見》

このルーブリック調査は、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に関連する能力・知識を、ルーブリックの形式で入学時と卒業時に学生自身が自己評価したものである。

現代ビジネス学科全体では総平均値が0.6ポイント上昇し、昨年度の卒業時平均（2.84）と比べても今年度はレベル3.14と0.3ポイントの上昇がみられた。＜グラフ2＞においては、入学時は寒色系（レベル0～2）の割合が半分を占めていたのに対し、卒業時には暖色系（レベル3～5）の割合が2/3程度を占めるとともに、Lv.4・Lv.5が1/3を占める結果となり、全体的な底上げに加え本学の教育プログラムの効果が十分にあったと言える。

項目別にみると、「主体性」が昨年度レベル2.88だったのに対し今年度はレベル3.05と0.17ポイント上昇、入学時と比べても0.66ポイントの伸長がみられた。昨年度卒業時の平均レベルを下回る結果となった「協働力」においても0.69ポイント伸び、レベル3.57となった。新型コロナウイルスの余波を受け、インターンシップにおいては本学から仲介できる企業が減り、受け入れ先があっても日数が大きく減るなどの影響が少なからずあった。そうした中で学生がインターンシップ先を自己開拓し、オンラインや1dayのインターンシップを積み重ねるなどして、主体的に活動の場を広げた。社会的な様式が変化する中で、それに適応する形で自身の能力開発を行った結果の表れではないだろうか。また2023年度は新型コロナウイルスが5類へ移行したことを受け、対面でのグループワークやフィールドワーク、インターンシップや海外留学プログラムなどのアクティブラーニングが活性化された。必修科目である「社会人基礎力演習」においては1回の授業に2回程度のグループワークを含むなど、コンピテンシーを磨く場面となったと考えられる。今後も本学の特徴ともいえる「人との関わりを意識した取り組み」をさらに強化していきたい。

今年度最も伸び率が高かったのは「生涯学習力」で、すべてのコースにおいて0.6ポイント以上の伸長が見られた。中でも医療コースにおいては入学時と比べ1.10ポイント上昇。当該コースは専門分野の学修を経て卒業後の進路へ直結させる学生が多く、今年度は8割近くの学生が医療分野での就職を確定している。他のコースにおいても職業スキルを高める専門科目を始め、多様なキャリア教育や実践科目の中で、2年間で得た知識やスキルを社会で磨いていく設計が意識できたのではないだろうか。

課題としては、卒業時の平均値がレベル3に満たなかった「発信力」と「創造的思考力」の向上だ。「発信力」においては昨年度もレベル2.99と、今年度と同水準に留まった。今後はこれらの社会人基礎力が、他の能力と相乗して成長実感を得られるよう後押しをしていきたい。